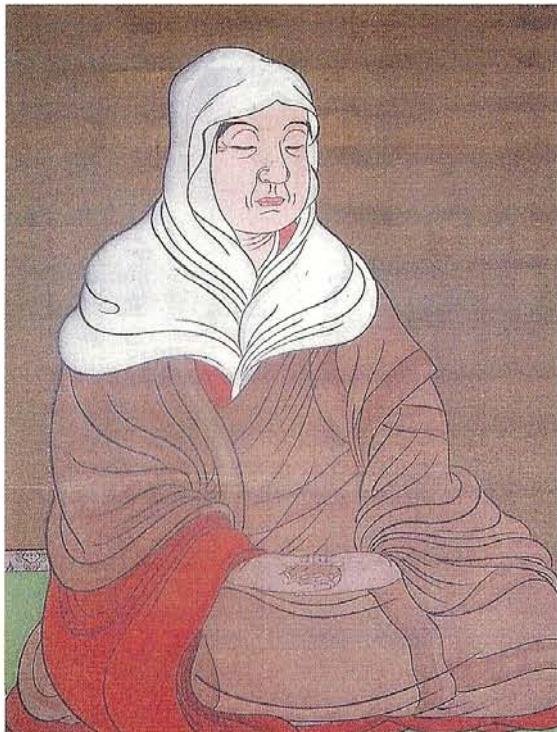


東京天台

平成十六年
秋彼岸号

発行所
天台宗東京教区

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481
杜多道雄



▲宗祖 伝教大師御影

われるときの生
命尊重は、人間
のいのちだけを
対象に考えられ
ているように思う。
いのちは人間
だけにあるので
はない。あらゆ
る動物、魚類、
蟻一匹にも又、
草花にもそして動かない「物」
にもいのちがあるのだ。

高度経済成長以来、買って
は捨て、買つては捨て、と物
のいのちを粗末にしてきた。
まだ十分使えるものも惜しげ
なく捨ててきた。今、景気が
悪いといいながら、学校では、
忘れ物が多くて、それを取り
にこない子が多い。むしろ、
新しいのを買ってもらうため
に捨てるという感覚であるよ
うに思える。

食に関しても、あらゆる所
で食べ物が粗末に、又無駄に
扱われるのを目にする。今、
食物の大部分を輸入に頼つて
いる日本なのにである。

物のいのちを粗末にする心
が人のいのちまで雑に扱うこ

伝教大師はご遺戒のなかに「童子を打たずんば我が
大恩とせん、努力よ、努力よ」と言葉を残された。
子供はみな国の将来を担つていく大切な宝である。
理不尽に打つことなど決してしてはならぬ、と弟子たちに戒められた。これは今の世にこそ最も必要な戒めである。

「物」の命
人のいのちにかかる大き
な事件が青少年から年少者へ
ばれてきた。しかし、こう言
と広がりを見せている。

高齢化とともに、物のいのちを粗末にしてきた。と、親は子供を自分の持ち物として考え、子供も大人と同様の、人格をもつた立派な一個の存在なのだという認識が足りないようと思われる。

だから今は「子供をつくる」と、若い夫婦は普通に言う。

子は親と別の人格

昔は、子供は神仏からの「授かりもの」と言い、神仏からお預かりした大切な子、という認識があった。子を自分のものとすれば、親は子を自分の思い通りにしたいと思うし、また、思い通りになると思うであろう。その結果、子供は

童子を打つなかれ

今こそ伝教大師のご遺戒を心に





先日、ある新聞で、人材活性プロデューサーの大谷由里子さんの「聞いてます?」というコラムを読んだ。

大谷さんの経歴は異色で、

若い時に吉本興業でタレントのマネージャーをやり、

結婚して専業主婦となり、

やがてベンチャーエンターテイメントを起し、社長を勤め、現在はとことん人づくりにこだわっているのだという。

その大谷さんが、「今の日本、結構ティーチとコートがごつちやになつていて」と指摘しておられるのだが、筆者も全く同感である。

では、ティーチとコーチの違いは何かといえば、ティーチは自分の知識を相手に教えることに主眼があり、コーチはまず相手に考えさせて、自分で答えを出させることに力点があるとでもいったらしいのだろう。

筆者は「ゆとりの教育」

(その功罪は別として) の実施に当つて、「歴史文化探検隊」をつくった。身近な歴史や文化を見童生徒自身が現地を訪ね、自分で調べて発表するというものである。

だが、実際に始めてみると、指導に当つた教師も町の人もティーチに始終したのである。

夏休み前に全指導者を集めた筆者は、改めてコーチ方式への切替を指示した。それは、まず児童、生徒の自主性を認め、隠れていた才能を引出して、それをサポートするという体制とでもいつたらいいだろう。

これは正に大谷さんのいふ「感じて、興味をもつて、動く人づくり」そのものだと思う。

更に、大谷さんは、吉本興業時代の上司に「一番大切なのは聞くこと」だといわれたという。コーチもティーチも、その背景にこの聞くという姿勢だけは失つてはならないと思うのである。

仏に向かつて

る。

授戒は、すべての人が持つてゐる仏性

(仏さまになれる性質)

を磨き出すのに必要な力となる。戒は、

悪しきことを慎み、

善きことを進んで行

うと戒めるもので、

それを毎日の生活の

中で務めることによつて自らの仏性を輝き出させ、また周囲の人をも感化させる

のである。

東京教区 第二回

じゅかい 授戒会

台東区谷中天王寺にて
来る11月20日に開催

平成18年は伝教大師が比叡山に天台宗を開かれて1200年になる記念の年である。

この慶期を機に、天台宗では一人でも多くの檀信徒のみなさまに天台宗徒としての戒律を受けていたたまこと授戒会をすすめている。

何か清々しく心が変わつたようを感じた。その後の生活にふと責任を感じたり、充実感を覚えたりしている」と言っていたが、正式に仏弟子になつたという自觉は確かにその後の生活をよい方に変えるようであ

くするのである。
まだ戒を受けられていない方は是非この機会にお受けになることをおすすめする。

申込み等、詳しく述べ
菩提寺にお問い合わせ下さい。





▲ 大祭のお練り供養

大師は非常に靈験のあつた方で、いえより三日のご縁日と、大師は如意輪觀音の化身と

山大師堂には縁あって大師ご自刻のご尊像が奉安されている。

都民憩いの場

境内には、昨秋改装された本堂のほか、元三大師堂、深沙大王堂、また重文で東国最古の白鳳釈迦像を安置する釈迦堂、鐘楼や多くの句碑がある。



▲ 縁起だるま市

武藏野の緑濃い深大寺周辺は、春は新緑の香、夏は緑陰に涼み、秋は紅葉の散策、冬は雑木林に武藏野をしおび、ときには雪景色、と四季それぞれに趣があつていつ訪れてお寺の仏教行事の他に、近年は境内での消防庁音楽隊の野外コンサートや（五月）薪正は、正月三日に入寂された

厄除元三大師大祭である。

いわれたので十八日の観音縁日には近郊より群衆が絶えなかつたという。現在は縁起だるま市も同時開催され厄除祈願の参詣と共にその賑わいは

華やかに続いており、きらびやかな装束の衆僧によるお練り供養など、格好の被写体になつて多くのカメラ愛好家を喜ばせている。

七〇種五千本のバラが咲き誇りそれは見事である。

（交通）京王線調布または、つつじヶ丘からと、JR三鷹からバス深大寺行き。

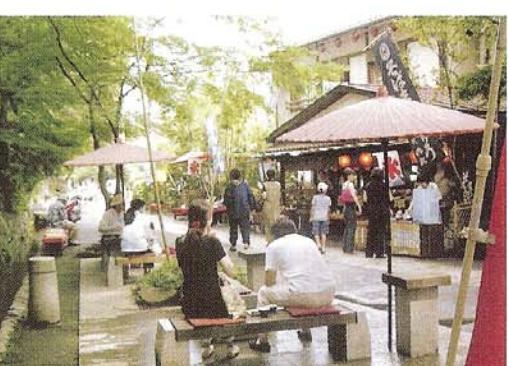
能なども催され参詣客のみならず、いろいろな人が訪れて賑わう。

元三大師大祭

天台の寺めぐり (18)

深大寺

武藏野の古刹



▲ 門前に憩う

門前には多くの蕎麦店や土産物店が軒をつらね、ほとんど能の店で自慢の手打ちの深大寺そばを供してくれ、また地ビールやそば饅頭など、両党もれなく喜ばせてくれる。



▲ 重文 白鳳釈迦像

鑑賞にと、深大寺とその周辺は都民の憩いの場になつている。